

平成 19年度健康危機管理時の栄養・食生活支援ガイドライン活用スタディ 実施報告

<p>目 的</p>	<p>頻回する自然災害等を中心とする健康危機発生時において、疾病や生活習慣病、アレルギー等、住民の身体状況に応じた食事提供、特定給食施設及び各種食生活機能団体との連携による栄養・食生活支援の体制整備について等、早急な対応が求められている。</p> <p>本会は、昨年度作成した「健康危機管理時の栄養・食生活支援ガイドライン」の活用検証を通じ、健康危機管理時の栄養・食生活支援の重要性を共有し、具体的内容と保健所管理栄養士等の役割を理解するとともに、公衆栄養活動に対するエンパワーメントの向上を図ることを目的とする。</p>								
<p>開 催 期 日</p>	<p>① 平成 19 年 10 月 18 日（木） 13:00～17:30 北海道庁別館地下大会議室 住所：札幌市中央区北 3 条西 6 丁目 TEL：011-231-4111</p> <p>② 平成 19 年 11 月 6 日（火） 13:15～16:45 兵庫県民会館 住所：神戸市中央区下山手通 4-16-3 TEL：078-321-2131</p> <p>③ 平成 19 年 11 月 21 日（水） 13:00～17:00 石川県庁行政庁舎 11 階 住所：金沢市鞍月 1 丁目 1 番地 TEL：076-225-1111</p>								
<p>対 象 者</p>	<p>① 北海道内保健所管理栄養士及び市町村栄養士 64 人 <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">保健所管理栄養士</td> <td style="padding: 0 5px;">29 名</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">市町村栄養士</td> <td style="padding: 0 5px;">35 名</td> </tr> </table> </p> <p>② 兵庫県を中心に近畿・中国四国地方の保健所管理栄養士 34 人</p> <p>③ 石川県、福井県、富山県、新潟県の保健所管理栄養士及び石川県、富山県内市町管理栄養士等 26 人 <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">本庁及び保健所管理栄養士</td> <td style="padding: 0 5px;">15 名</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">市町村栄養士</td> <td style="padding: 0 5px;">11 名</td> </tr> </table> </p>	保健所管理栄養士	29 名	市町村栄養士	35 名	本庁及び保健所管理栄養士	15 名	市町村栄養士	11 名
保健所管理栄養士	29 名								
市町村栄養士	35 名								
本庁及び保健所管理栄養士	15 名								
市町村栄養士	11 名								
<p>内 容</p>	<p>◆開会 主催者挨拶</p> <p>◆ケーススタディ 「健康危機管理時における行政栄養士の栄養・食生活支援活動」 ・シミュレーションによるガイドラインの活用と活動の具体の検討 ・事例報告</p> <p>◆講演 「公衆栄養活動における保健所管理栄養士の役割について」 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室 栄養・食育指導官 田中弘之氏</p> <p>◆閉会</p>								

◆ ケーススタディ

「健康危機管理時における行政栄養士の食生活支援活動」
～シミュレーションによるガイドラインの活用と具体的活動の検討～

1 ケーススタディ「ガイドラインを活用して」

◎シミュレーション

テーマ：もし、あなたの 街 で大地震が発生したら
その時、行政の管理栄養士は何をするのか？

●北海道十勝地震

平成 19 年 10 月 19 日(金)10 時 13 分頃地震がありました。

震源地は北海道十勝地震

規模:マグニチュード 6.8 と推定(A市の南西約 60km) A市の震度は6強

○道路状況

土砂崩れおよび道路の崩壊等が多発。日高、富良野、北見、中標津、釧路等各方面から十勝へアクセスすることができない。十勝方面にアクセスできるようになるまでには3日かかる。

●兵庫県中西播磨地震

平成 19 年 11 月 6 日(火)10 時 13 分頃に地震発生

震源地は兵庫県F町、震源の深さ 15km

規模:マグニチュード 7.0 と推定、F町の震度は6強 死者 2,067 人、負傷者 14,231 人

○道路状況

揖保川、市川、加古川、千種川の老朽橋梁破損、崖崩れ等が多発。JR等鉄道停止(新幹線・山陽本線姫路市内で橋脚落下、加古川駅構内で列車が脱線、播但線のり面崩落箇所多数確認、姫新線崖崩れある模様)、高速通行止め(姫路バイパス姫路大橋橋脚破損)、国道、県道とも通行止め。西播磨にアクセスできるようになるまでには数日かかる見込み。

●石川県加賀沖地震

平成 19 年 11 月 6 日(火)、10 時 13 分頃に地震発生

震源地は石川県加賀沖、震源の深さ 15km

規模:マグニチュード 6.8 と推定、南加賀 3 市及び石川中央 1 市の一部で震度 6 強

死者 14 人、負傷者 2,231 人

○道路状況

・土砂崩れ及び道路の損壊等が多発。

・JR西日本金沢支社内(北陸3県と新潟、長野県の一部)全路線ストップ。

・北陸自動車道、能登有料道路、国道、県道とも通行止め。にアクセスできるようになるまでには数日かかる見込み。

①ライフライン

電気：地域全域で停電、3日後復旧

水道：地域全域で供給停止、2週間後復旧

ガス：地域全域で供給停止、1ヶ月後復旧

②被災者の受け入れ等

・福祉施設 - 近隣の住民が30人避難

・病院 - 患者が次々と運ばれ、混乱状態

・学校・保育園 - 避難所となる。

・自衛隊の炊き出し開始は5日後となり、それまではおにぎり、パン、水しか届かない。

③人員

当日出勤している職員は全員無事である。

④その他

・子どもに対するお菓子の配給が始まった。

問 状況をふまえて、地域住民に対して管理栄養士(栄養士)は何をしなければならいか、検討しよう。

◎ グループワーク結果

☆災害時にすべきこと

- ①庁舎内の被害と体制の確認
 - ・ 職場のライフラインの確認
 - ・ 職場の修復
 - ・ 活動できる職員、スタッフの確認
- ②市町村の状況確認、市町栄養士の活動支援
 - ・ 市町村栄養士の安否確認、連絡（困っていることがないか）
 - ・ 市町栄養士が栄養士として動けるようサポート
 - ・ 避難所の状況（環境・人数）を把握
 - ・ 災害弱者となりうる人の状況把握
- ③情報収集
 - ・ 連絡手段は？ T E L ・ F A X ・ メール ・ 無線
 - ・ 情報収集 （ T V ・ ラジオ）
- ④特定給食施設
 - ・ 状況を把握（給食が実施できているか、備蓄食品等、体制について）
 - ・ 支援体制の確保
- ⑤地域の食料の備蓄状況確認
 - ・ 水（飲料水）、備蓄品の状況、食料の確保
 - ・ 炊き出しの提供・栄養確認
 - ・ 食事（炊き出し）がすぐにできるように場所、調理器具の把握
- ⑥母子、高齢者、介護・病人への食支援
 - ・ ミルク、離乳食、哺乳瓶等
 - ・ 特疾 M a p 患者の状況把握
 - ・ 特別用途食品、特定保健用食品などの手配
 - ・ 特殊な非常食に対応できるようなコーナーの確保
- ⑦情報の整理及び支援方法・優先順位の検討
 - ・ 災害弱者への食事支援
 - ・ 物資の整理と適切な相手への払い出し
 - ・ ボランティアのまとめ役とアドバイス
- ⑧連絡体制
 - ・ 職員の役割分担の確認
 - ・ 職員間の連絡、集合
 - ・ 各施設の連絡調整
 - ・ 市町及び施設栄養士との連携体制
 - ・ 本庁との連絡体制
- ⑨避難所等の食事状況把握と調整
 - ・ 献立の調整、自衛隊への申し入れ
 - ・ 食事療法を要する人のリスト把握
 - ・ 寝たきり高齢者のリスト把握
 - ・ 精神面のケア
 - ・ 疾病患者のケア
 - ・ 食生活相談（避難場所）
 - ・ 栄養士会等関係団体への協力派遣の依頼
 - ・ 公共施設の状況確認

☆平常時から準備しておくこと

- ・ 災害時の食事や備蓄の普及啓発
- ・ 具体的な備蓄方法の提示
- ・ ボランティア等マンパワーの確保と研修



- ・ 給食施設での備蓄食品の確保の状況把握
- ・ 給食施設間の連携づくりと災害時の体制づくり
～施設間の支援体制づくり、訓練（シミュレーション）、仲間づくり～
- ・ 市町村栄養士、保健所栄養士間の連絡体制
- ・ 保健所栄養士としてできることを把握する
- ・ 市町村の防災マップ・災害時計画の把握及び食支援の位置づけ
- ・ 他の機関との連携体制の整備
↓
災害時のマニュアルの作成（保健所・市町村）。
- ・ 大型店舗との提携、仕出し・飲食店等の協力体制整備
- ・ 危機管理に関する検討会・研修会（視察含む）の開催

◎ グループワークのアンケート結果

単位：人（％）

項目 \ 評価	できた	まあ出来た	あまり出来なかった	無回答	計
ガイドラインの活用は理解できたか。	28 (26.4)	64 (60.4)	0 (0.0)	14 (13.2)	106 (100.0)
職員として災害時にすべきことを理解できたか。	33 (31.1)	63 (59.4)	3 (2.8)	7 (6.6)	106 (100.0)
行政管理栄養士としてすべきことが理解できたか。	40 (37.7)	58 (54.7)	4 (3.8)	4 (3.8)	106 (100.0)
平常時にすることを理解できたか。	52 (49.1)	44 (41.5)	4 (3.8)	6 (5.7)	106 (100.0)
自分の意見が十分に言えたか。	33 (31.1)	53 (50.0)	4 (3.8)	16 (15.1)	106 (100.0)

◆ 事例報告

北海道会場：「輪島市能登半島沖地震におけるガイドラインの活用について」

報告 石川県健康福祉部少子化対策監室子育て支援課

専門員 濱口 優子

兵庫県会場：「新潟中越地震の対応から」

報告 新潟県上越保健所地域保健課課長代理 杉田弘子

石川県会場：「阪神淡路大震災の対策から」

報告 兵庫県健康生活部健康局健康推進課

主幹兼食の健康係長 松永 照子

◎ 事例報告のアンケート結果

単位：人（％）

項目 \ 評価	できた	まあ出来た	あまり出来なかった	無回答	計
テーマの重要性は理解できたか。	63 (59.4)	32 (30.2)	11 (10.4)	0 (0.0)	106 (100.0)
該当のテーマから自らの課題を見いだせたか。	39 (36.8)	55 (51.9)	11 (10.4)	1 (0.9)	106 (100.0)

◎ ケーススタディ評価

(1)シミュレーションは迫力があつた。スタディの指示はパワーポイントで表示すれば進行がスムーズにいくことが分かつた。(ファシリテーターが必要)

(2)危機管理時の栄養・食生活支援について考えたことは初めての参加者が多く、その割に作業がスムーズに実施できた。

危機管理体制整備については市町村の格差が大きく、全く発言・発想できない者と取組事例を積極的に発言できる者がいた。

(3)保健所管理栄養士は平常時の連携の重要性が認識され、市町村管理栄養士は専門職性を生かした活動の重要性が確認できた。また、情報等については市町村内の栄養士間で共有したい等の意見があつた。



2 講演

「公衆栄養活動における行政栄養士の役割について」

厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室

栄養・食育指導官 田中弘之氏

◎ 講演のアンケート結果

単位：人 (%)

項目 \ 評価	できた	まあ出来た	あまり出来なかつた	無回答	計
テーマの重要性は理解できたか。	41 (38.7)	48 (45.3)	11 (10.4)	6 (5.7)	106 (100.0)
該当のテーマから自らの課題を見いだせたか。	23 (21.7)	61 (57.5)	13 (12.3)	9 (8.5)	106 (100.0)



3 考 察

〈北海道会場〉

北海道における災害は地震、津波、台風、竜巻など色々あり、多数の犠牲が出ているが、このような災害が多く発生する地域とほとんど起きない地域がある。

この度の机上シミュレーションは、本庁別館大会議室において保健所管理栄養士29名市町村管理栄養士、栄養士35名を対象として、保健所と市町村それぞれ5人から7人のグループで構成し、9グループとした。

保健所における討議は、客観的な意見が多く、ガイドライン等に基づき保健所の立場で何をしなければならぬかが中心の検討となった。

一方、市町村グループは住民に直接接していることから身近に起きる問題や課題が多く検討された。

グループの中では災害等を経験している保健所、市町村の管理栄養士も含まれるが、災害に対する経験がない者がほとんどで、改めて討議することは今回のケーススタディが初めてであった。

災害時における市町村や保健所管理栄養士の位置付けは、防災計画の一般的な役割に位置づけられており、管理栄養士の職種を活かした位置付けにはなっていないことから、日頃から管理栄養士としての職能に立った考え方が構築できていない。

この度の机上シミュレーションは、大規模な災害が発生した場合に起こりうる食生活の被害を想定し、現在おかれている体制を理解し、それに関わる課題等を見いだすとともに、ガイドラインを使用することにより、災害時の問題点・課題を明らかにし、より実効性の高い災害時の食生活の在り方へと構築することができることが分かった。

現状では、災害時のマニュアル等には管理栄養士はスタッフとして入っていないが、管理栄養士が加わることにより、限られた物資の中で可能な限り食生活を豊かにし、長期化する避難生活をメディカル面だけではなくスピリチュアル面においてもサポートすることができることがわかった。

〈兵庫会場〉

兵庫会場の参加者は、県型保健所27人（兵庫県13人、他府県14人）保健所政令市7人の計34人で、4～7人の構成で6グループ（県型4グループ、政令市2グループ）として討議を行った。

参加者のうち、兵庫県及び神戸市の職員で半数近くを占めていたため、阪神・淡路大震災の経験及びその後の対応の影響もみられたが、多くの気づきや学びがあった。政令市グループでは住民支援を、県型保健所グループでは給食施設の相互支援及び管内の連携体制を中心とする内容が検討され、特に、平常時の体制整備の重要性が認識された。

平常時の活動としてあげられたのは、

- ① 市町村の危機管理マニュアルに食支援（食に関する項目）を位置づける
- ② 災害弱者の食支援のためのリストアップ及び備蓄食品整備



- ③ 給食施設間の支援体制づくり
- ④ 管内管理栄養士の連携体制づくり
- ⑤ 住民への啓発
- ⑥ 危機管理に関する検討会・研修会の開催

であった。参加者は、これらへの帰庁後の取り組みを強く心に期した。

近畿・中国四国地域は、南海・東南海地震の発生が危惧されており、平常時から備えの必要性は認識されているものの、マニュアルの整備等具体的な備えが進んでいるところは少なく、今回のガイドライン活用のケーススタディは、危機管理に関する保健所管理栄養士の役割を学ぶために有意義であり、多くの関係者が参加できるような地方での開催を望む声が多く聞かれた。

〈石川会場〉

石川会場の参加者は、県保健所10人（石川県4人、他県6人）、本庁4人（石川県2人、他県2名）、保健所設置市1人、市町11名（石川県10人、他県1人）の計26人で、5～6人の構成で5グループ（保健所3グループ、市町2グループ）として討議を行った。

石川県では、2007年3月に、観測史上初の震度6強を観測する能登半島地震を体験したばかりであったが、被害が比較的小規模であったことと、被害地域が限られていたため、県保健所管理栄養士は全員が栄養・食支援に関わったが、市町管理栄養士等の多くは関わっていない状況であった。しかし、地震は起こらないと考えられていた身近な地域で起こったことで、何かしら対策を考えなければいけないという意識は高まっていたと思われ、市町への案内は日程的に急であったが、県内では金沢市（保健所設置市）を含む19市町のうち8市町から参加があった。

また富山、福井、新潟からも参加いただき、北陸地域の交流ができた。

グループ討議では、保健所グループでは特に市町及び給食施設への支援、市町グループからは具体的な住民支援の重要性が挙げられ、そのための平時からの連携・体制とマニュアルの整備等の必要性が確認された。

参加者からは、これまで災害時の栄養・食生活支援に関する研修会はなく、このシミュレーションによる研修は新鮮で、改めて考えるよい機会となったとの感想が多く聞かれた。いざという時に速やかに活動できるためには、平時から災害時を想定して何をすべきかを検討しておく必要があり、シミュレーションによる研修は有効であると思われる。

◆参加者の感想

◎ 保健所

- ・北海道（東北）では、雪が積もっている時期（11～3月）のとき、どう支援したら良いのか聞きたかったです。
- ・細かい情報でも良いので、常にネットに情報を公開して頂ければ幸いです。
- ・時間が短く、一日くらいの研修でも良かったのではないかと思います。行政の栄養士の役割について再認識しました。
- ・ケーススタディは役割を確認する上で有効でした。保健所単位でも関係者を集めて、こういう研修をすることの必要性を感じました。また、継続的な研修による意識づけも必要と思います。
- ・災害時の行政栄養士の役割について、グループワークを通じて学ぶことができよかった。
- ・とても有意義な研修を受講させていただきました。現場に持ち帰り、ぜひ活用していきたいと思います。
- ・グループワークをもう少し深めたかった。必要性は理解できたが、実現にむけた方法を既に実施されている方に聞きたかった。

- ・シミュレーション研修はよかった。今後、行政栄養士間、施設間等様々な場で研修方法として活用できると思う。
- ・グループワーク時のアドバイスにハッと気づかされることが多くありました。まだまだ多くの行政栄養士が、平時からの取り組みの大切さに気がついていないことと思います。より多くの行政栄養士の啓発が、研修を受けた者の勤めと心得ました。
- ・市町栄養士も参加し、情報を共有出来たことは良かった。
- ・地域住民に何が起こるのか、何をサポートしなければいけないのかをもう一度自分自身考え、ガイドラインをもう一度読んでみようと思いました。つなげることを意識して仕事をしていこうと思った。
- ・グループワークを通して栄養・食生活支援ガイドラインが具体的になりとても身近に感じる事ができたと思います。
- ・毎年、日本公衆衛生協会主催の管理栄養士の研修を開催することで、保健所での管理栄養士の位置づけが明確になることを期待したい。

◎ 市町村

- ・気づきの多い研修会でした。どう生かせるのか、どう行動できるのか、これからの課題です。スタッフの皆様、お疲れさまでした。
- ・短い時間で内容が盛りだくさんであった。自分の中で、今日の内容が整理できるか不安である。
- ・災害については自分の町でどの程度対策が行われているのか、自分自身が把握できていないことに気付いたので、これから整理します。行政職員として、又、栄養士としてできることが整理できました。地震などがあっても自分が栄養士としての働きかけを求められることが想像できなかったが、こういうことができるということを平常時からアピールしていく必要があると感じた。事例報告をされた濱口さんの話は、とても明るくて、親切で、感じが良かったです。初対面ですが、対応のされかたで随分と気持ちがよくなるものだと感じました。ありがとうございました。
- ・危機管理は日頃からとても気になっていましたが、実際には何もできていないので、まずは何をすべきか、整理したいと思います。広い公衆栄養の話もとても参考になりました。もう一度、行政の栄養士として、何をすべきか、見直してみたいと思います。グループワークはとても良かったです。初めに記録と発表者も決めておくと、より良かったと思います。
- ・考えさせられました！災害はいつ起こるかかわからないですから、スキルアップの努力を怠らないと感じました。こきざみでつめこみ式でなく、ゆったり時間を講義時間にあててほしい。深く聞きたかったのに、さらっとで、ものたりなかった所もあった。
- ・ケーススタディはとても為になりました。自分が災害に対して軽視していた（対策を何も考えていなかった）ことを反省しています。講演ではもっと新しい情報がほしかったです。
- ・内容が盛り沢山で、いそがしい研修でした。さまざまな情報をかけ足で知ることができました。災害時における道や保健所の支援は心強いことと思いますので、災害時の速やかな支援をよろしくお願いします。
- ・質疑時間が欲しかった。せつかくの機会なので、県の方針とか災害時マニュアルの作成予定等も紹介して欲しかった。またこの研究班の活動の今後にも期待しているし、社会的に栄養士の災害時の活動が認知されるようになりたい。
- ・「災害対策」を切り口にいろいろな部署の栄養士の話聞いてよかった。研究班の方の適切なアドバイスを受けられ勉強になった。人間、体験に勝るものはなし。ジグソーパズルの全体を知っている。管理栄養士はきっとこうあるべき！！